

郷土の芸術文化史をたどり、庄内にゆかりのある作家を紹介する展覧会「庄内の美術家たち」では、これまで幕末から明治にかけて生まれた日本画家をたどり紹介してきました。

シリーズ第17回となる今回は、明治30年代から大正にかけて鶴岡に生まれ、昭和という時代に再興日本美術院展（院展）で活動した太田大仙子、真島元枝、成澤翠映を取り上げます。

明治から大正にかけて、日本画の世界は伝統的な表現から現代的な表現へと移り変わっていきました。その後の昭和という時代のなかで、^{おおた たいせんし}太田大仙子（明治34～昭和24）は日本南画院で活動し、明治初頭に流行した南画の世界で制作しましたが、1939（昭和14）年には転身し、院展に二度、新文展に一度入選しています。

^{ましま もとえ}真島元枝（明治42～平成6）は学生時代に太田聴雨に師事し、1938（昭和13）年の第1回新興美術院展に出品し、同展では七度入選しました。戦後の1946（昭和21）年には院展に初入選し、以後出品を重ねて1954（昭和29）年に院友となります。前田青邨門下の一員となるなど同院で研鑽を積みながら、1975（昭和50）年まで院展に出品を重ねました。

^{なりさわ すいせい}成澤翠映（大正4～平成10）は東京美術学校で結城素明に師事し、1940（昭和15）年から日本画会や紀元二千六百年奉祝美術展、日月社展などに出品し、1953（昭和28）年に日月社会員となっています。院展へは1955（昭和30）年に初入選し、1958（昭和33）年には院友となって、1971（昭和46）年まで院展に出品しました。

本展覧会では、伝統的な日本画から現代的な日本画へと移り変わる時代に、新しい独自の画風による日本画の創作に取り組んだ三人の画家の作品、約30点を展覧します。

■ ギャラリー・トーク

2.13 日 / 2.27 日

各日 2 回 ①10:00 ～ ②14:00 ～

※各回 30 分程度

当館学芸員が会場を案内し、作品解説を行います。
※事前にお申込みのうえ、当日エントランスホールにお集まりください。

定員：各回 10 名

参加料：無料 ※ただし、観覧券が必要です。

申込：電話または館内受付にてお申込みください。

※お一人様 2 名まで申込可（小学生以上は 1 名）。

受付期間：2 月 5 日（土）から開催前日まで。

※9:00 ～ 17:00、休館日を除く。

【図版】

1. 太田大仙子《きゆうり畑・チャボ》紙本着色・二曲一隻屏風、173.0×261.6 cm、鶴岡市蔵／2. 太田大仙子《山里》絹本着色・軸装、131.0×35.8 cm、山形美術館蔵／3. 真島元枝《海の幸山の幸》1972（昭和47）年、紙本着色・額装、150.0×119.5 cm、致道博物館蔵／4. 真島元枝《鏡池》1962（昭和37）年、紙本着色・額装、150.0×122.0 cm、出羽三山歴史博物館蔵／5. 成澤翠映《はんこたんな（母と子）》紙本着色・額装、92.0×97.5 cm、鶴岡市蔵／6. 成澤翠映《農婦》絹本着色・額装 2 点、各 113.5×36.0 cm、鶴岡市蔵



1



2



3



4



5



6



新型コロナウイルス感染症対策のお願い



ご入場の前に、検温にご協力ください。
37.5 度以上の発熱や風邪の症状がある方はご来場をお控えください。



他の来場者とは十分な間隔（1m程度）をとってご覧ください。



ご入場の前に、連絡先のご提出をお願いいたします。（頂いた個人情報は、適切に保管し、一定期間経過後に破棄します。）



大声や近接での会話はご遠慮ください。



手指消毒やこまめな手洗いをお願いいたします。



混雑回避のため、人数制限を行なう場合があります。



マスクの着用と咳エチケットにご協力ください。



館内は、空調と設備により温湿度管理と空気清浄を行っています。

新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインに基づき、感染症対策を実施しています。ご来館の際はご協力をお願いいたします。なお、感染症の拡大状況によっては、中止または変更となる場合がございます。詳細は随時「当館ホームページ」でご案内いたしますので、ご確認のうえ、ご来館ください。

鶴岡アートフォーラム



〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町13-3

TEL:0235-29-0260(代表) FAX:0235-22-6051

E-mail: info@t-artforum.net URL: https://www.t-artforum.net

